

第 709 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2025 年 10 月 11 日(土) 午後 2 時 00 分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	専門医共通講習（医療安全）1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分）



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※ 日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※ 建物の外観：ガラスカーテンウォール

※ 看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※ 講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 709 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 昭和医科大学藤が丘病院 小児科 神谷 太郎》

一般演題 (1) 14:00 – 14:40 座長 氏家 岳斗 (昭和医科大学病院 小児科)

1) 小児胸膜炎におけるステロイド投与の有効性

○佐藤 真依子、坂口 晴英、早崎 志保、新村 南、伊藤 研、角皆 季樹、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学 小児科学講座)

1 歳男児。RS ウイルス感染による発熱・酸素化不良のため入院した。胸部 CT で胸膜肥厚と胸水を認め、感染性胸膜炎と診断し、胸腔ドレナージおよび抗菌薬で加療した。治療への反応が乏しく、胸膜肥厚が改善しなかったため、入院 11 日目からメチルプレドニゾロンを投与した。速やかに解熱が得られ、有害事象は認めなかった。小児胸膜炎において、治療反応性・病期に応じてステロイドが有効な治療選択肢となる可能性が示唆された。

2) マイコプラズマ関連肝炎と考えられた 1 例

○関谷 健、日隈 のどか、滝 元宏、三川 武志、佐藤 弘之

(東京都立荏原病院 小児科)

9 歳女児。発熱、咳嗽、血液検査で著明な肝障害 (AST 4615 U/L, ALT 4742 U/L) を認め、肺炎、急性肝炎の診断で入院した。マイコプラズマ (MP)・ニューモニエ DNA 検査陽性で、各種ウイルス感染症は否定され、MP 関連肝炎が考えられた。抗菌薬とステロイド投与にて改善し、自己免疫機序の関与が示唆された。MP 感染症は多彩な肺外症状を呈する。まれに肝炎が重症化するため、病態に応じた治療が必要である。

3) 病歴にとらわれて原因確定が遅れたトキシックショック症候群の 1 例

○小野 佳恋、古市 宗弘、新庄 正宜、鳴海 覚志

(慶應義塾大学病院 小児科)

13 歳女子。発熱と全身の紅斑を主訴に受診し、血圧低下と意識障害を認めトキシックショック症候群 (TSS) と診断した。当初タンポンの使用歴から月経関連 TSS を疑ったが、後頭部の感染性粉瘤内の膿から TSST-1 産生型 MSSA が分離された。後頭部粉瘤は毛髪で発見しにくく、早期に月経関連と結びつけたことで診断が遅れた。丁寧な問診と病歴にとらわれない入念な身体診察が正確な原因確定と早期治療のために重要である。

4) 当院における遺伝カウンセリング外来の開設と中規模病院小児科における外来の役割

○松本 孝子¹⁾、伊藤 甫¹⁾、武田 翔¹⁾、小嶋 まゆき¹⁾、瀧 栄志郎¹⁾、坂口 慶太¹⁾、松田 祐子²⁾
井ノ口 卓彦³⁾

(¹⁾ 東京都立東部地域病院 小児科、²⁾ 同 婦人科、³⁾ 東京都立駒込病院 遺伝診療部認定遺伝カウンセラー)

遺伝学的検査の保険適応拡大から遺伝カウンセリングの需要が増大しているが、実際には遺伝カウンセリング外来の設定は大規模病院が中心である。中規模病院である当院では、婦人科と共同で遺伝カウンセリングを目的とした外来を開設した。中規模病院での同外来の利点は遠方の病院まで相談者が赴かなくてよいこと、他科と緊密な連携が得られやすいこと、欠点は研究的先進的な検査の実施が困難であることが挙げられた。

5) 川崎病治療中に両側感音性難聴を発症した1例

○紺野 南帆¹⁾、飯島 弘之²⁾、酒井 伶奈²⁾、益田 博司²⁾、前川 貴伸²⁾、守本 倫子³⁾、窪田 満²⁾
庄司 健介^{1) 4)}

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部、³⁾ 同 耳鼻咽喉科、⁴⁾ 同 感染症科)

5歳男児。川崎病を発症し、他院で大量免疫グロブリン療法が行われて奏功し、冠動脈病変は認めなかった。発症11日目に呼びかけへの反応低下から難聴が疑われたため、当院へ転院した。聴性誘発電位検査と遊聴力検査で両側感音性難聴を認め、ステロイド、アデノシン三リン酸、ビタミンB12を投与したが聴力は改善せず、補聴器を装用した。経過中に川崎病の再燃はなかった。川崎病随伴難聴について文献的検討を加えて報告する。

○指定発言 三好 直人 (国立成育医療研究センター 耳鼻咽喉科)

6) 小児薬物中毒疑いにおける尿薬物迅速検査の限界とホスフェニトインによる偽陽性

○上田 英¹⁾、中澤 はる香¹⁾、堤 範音¹⁾、長谷川 智華²⁾、新井 健人¹⁾、山田 ひかり¹⁾、高橋 諒¹⁾
齋藤 直子¹⁾、柏木 保代¹⁾、山中 岳¹⁾

(¹⁾ 東京医科大学病院 小児科・思春期科、²⁾ 東邦大学医学部 法医学講座)

3歳男児。意識障害、けいれんで搬送され、ミダゾラムとホスフェニトイン (fPHT) を投与した。尿薬物迅速検査でバルビツール (BAR) が陽性を示し、虐待を疑った。来院時の血清からBARは検出されず、第3病日と第6病日にフェニトインが検出された。質量分析により、fPHTが尿検査でBARと交差反応し偽陽性を示したことが判明した。尿薬物迅速検査には限界があり、結果解釈には注意を要する。

7) 麻酔導入後のアナフィラキシーショックに対して原因薬を同定した1例

○林 茉莉奈¹⁾、坪谷 ひなの¹⁾、大石 賢司¹⁾、稲毛 英介¹⁾、神保 圭佑¹⁾、安部 信平¹⁾、鈴木 光幸¹⁾
工藤 孝広¹⁾、安藤 望²⁾、船引 亮輔³⁾、東海林 宏道¹⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科、²⁾ 同 麻酔科、³⁾ 群馬大学医学部附属病院 麻酔・集中治療科)

4歳男児。陰嚢水腫の手術目的に入院したが、麻酔導入後にアナフィラキシーショックを発症した。加療により改善し、退院後に被疑薬同定のため皮膚ブリックテストと好塩基球活性化試験を施行した。両者の検査結果でロクロニウムが陽性を示し、原因薬剤と考えた。麻酔薬によるアレルギーは、手術や緊急対応時に重大な問題となる。被疑薬を同定することは重要であり、文献的考察を交えて報告する。

* * 休 憩 15:15 – 15:25 * *

感染症だより 15:25 – 15:40 (講演: 15分)

講師 高梨 さやか (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部)

共催セミナー 15:40 – 16:20 (講演: 40 分)

「家族性高コレステロール血症の診療アップデート」

座長 大石 公彦 (東京慈恵会医科大学 小児科学講座)

講師 吉田 博 (東京慈恵会医科大学附属 柏病院)

家族性高コレステロール血症 (FH) は、高 LDL コレステロール (LDL-C) 血症、早発性の冠動脈疾患 (CAD)、腱・皮膚黄色腫を 3 主徴とする常染色体遺伝性疾患である。すなわち診断には LDL-C 値 (成人では未治療時 180 mg/dL 以上、小児では未治療時 140 mg/dL 以上を複数回確認) に加え、定量的評価を含む腱黄色腫の診察が重要であり、さらに家族歴聴取を忘れてはならない。FH はきわめて CAD の発症リスクが高く、早期診断、厳格な治療が必要である。

共催: Ultragenyx Japan 株式会社

* * 休 憩 16:20 – 16:30 * *

教育講演 16:30 – 17:35 (講演: 60 分 + 質疑応答: 5 分) 専門医共通講習 (医療安全) 1 単位

「医学教育を活用した医療安全の質改善の試み」

座長 東海林 宏道 (順天堂大学医学部 小児科学講座)

講師 阿部 祥英 (昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター)

医学部の教員は臨床、研究、教育に加え、管理も求められるようになった。しかし、医師の働き方改革に対応しながら個人で継続的・効率的にそれら 4 つの全てに関わるのは困難である。当院では臨床実習・研修に参加した学生や臨床研修医のアクティブ・ラーニングを通じ、医学教育を効率よく推進できないか挑戦を続けている。診断エラーを題材にすることで、医学教育と同時に医療安全管理にも寄与できる可能性を見出したので供覧する。

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedts-tokyo.com/>



◆ 2025 年度講話会及び年間行事予定 ◆

■ 講話会予定

講話会	日 程	会 場	備 考
第 710 回	2025 年 12 月 13 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通 （会場開催のみ）	※演題締切
第 711 回	2026 年 1 月 10 日（土）		※演題締切 2025 年 11 月 20 日
第 712 回	2026 年 2 月 14 日（土）		※演題締切 2025 年 12 月 20 日
第 713 回	2026 年 3 月 14 日（土）		※演題締切 2026 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間 3 回開催されることが予定されています。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2025 年 12 月 7 日（日）	日本大学	※満員御礼
2026 年 2 月 7 日（土）	国立成育医療研究センター	※参加申込は各コース 4 か月前より
2026 年 2 月 8 日（日）	国立成育医療研究センター	

申し込み先：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■ 第 50 回東日本小児科学会のご案内

会 長：昭和医科大学医学部小児科学講座小児内科学部門 教授 水野 克己

大会テーマ：こどもたちの笑顔あふれる社会を目指して

日 程：令和 7 年 11 月 23 日（日・祝）

会 場：一般財団法人全電通労働会館（ハイブリッド開催）

U R L：<https://www.k-gakkai.jp/eastjp50/index.html>

参加登録期間：2025 年 8 月 20 日（水）～ 11 月 23 日（日）

参 加 費：医師・メディカルスタッフ・企業 8,000 円（不課税）

学生・初期研修医 無料



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2025 年度総会議事録】

2025 年度総会議事録を東京都地方会ホームページの講話会プログラム（会員専用）バックナンバー内に掲載しています。

【2025 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

年会費納入のお知らせをメールおよびホームページにてご案内しております。

2025 年度会費及び 2024 年度・2023 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認ください。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】 昭和医科大学医学部小児科

【運営事務局】 日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

